

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年3月31日

所属・職	経済学研究科 教授	氏名	田井 良夫
研究課題	「税源浸食と利益移転」(BEPS : Base Erosion and Profit Shifting) の研究		
研究 キーワード	BEPS	当年度計画に 対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>OECD/G20BEPS プロジェクト最終報告書が、2015年10月5日公表されたことを受け、最終報告書を盛り込んだ『国際租税法—概論—(第4版)』本庄資・田井良夫・関口博久 共著(大蔵財務協会、2018年)を発行した。</p> <p>しかし、いまだに国境を越えた電子商取引の広がりや経済のグローバル化に対し、現行の国際課税ルールが追いついていけておらず、近時、源泉地国でも居住地国でも十分に課税されない「二重非課税」の問題や、本来課税されるべき経済活動が行われている国で所得計上されない問題が顕在化している。</p> <p>そのため、現在は、『国際租税の理論と課題』の書籍発行を進めている。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等 特になし</p> <p>3. 主な経費 特になし</p> <p>4. その他の特筆すべき事項(表彰、研究資金の受入状況等) 特になし</p>			
(本文は1ページ以内にまとめること)			